

宜野湾市立はごろも小学校

基本情報

はごろも小学校運営協議会

平成31年4月1日 設置

委員構成

地域コーディネーター、PTA 会長、
自治会長、校長

など 8名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部名

宜野湾市地域学校協働本部

背景・取組概要

地域で子どもたちを育てるために、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民・保護者と共有し、地域と一体となって子ども達を育む「地域とともにある学校づくり」とともに、「学校を核とした地域づくり」に向けて、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを推進する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

PTA会長や自治会長、地域コーディネーターなど学校・家庭・地域の関係者を協議会員として委嘱し、学校運営協議会を年3回開催している。協議会では、学校関係者評価の改善などについて、協議している。

◆地域学校協働活動

地域コーディネーターが、地域の様々な教育資源を学校につなげ、学校と地域の連携推進に努めている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会に地域コーディネーターも参加し、学校と地域の連携について、意見交換・情報共有を図っている。



成果・効果・課題

○成果・効果

○地域の方々が、これまでより学校に足を運ぶようになり、学校・地域の繋がりが強化された。
○評価項目をわかりやすく改善したことで、課題について共通確認し、対応策を学校運営協議会で協議することができた。

☆地域生徒会等の取組により、地域行事への参加は増えてはいるが、今後も自治会、地域住民、保護者との連携を強化し、行事等の情報共有を行うことで、更なる参加促進に努める。

石垣市立宮良小学校

基本情報

宮良小学校学校運営協議会

令和6年6月13日 設置

委員構成

公民館長、婦人会長、青年会長、PTA会長、老人会長、教育委員会職員など
10名

会議回数

年1回以上

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員0名(0名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部名

石垣市地域学校協働本部

背景・取組概要

地域と共に歩む学校作りを目指して、地域の自然、文化、歴史を地域の方と学習する必要がある。

工夫・ポイント・特徴的な取組

学校運営協議会のなかで、公民館からの意見として、運動会の競技種目に地域の方も参加できるような種目も作ってほしいという意見があり、コロナ前まで行っていた団体リレーを復活させた。地域との協力活動で稲作体験、黒糖作り、マングローブ観察を実施し、子ども達が多様な体験を通して地域への興味関心を高めることができた。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

☆PTAや地域の方の協力を得て40年以上川下りを行っているが、中心的な役割を担っている方々が高齢になり、世代交代の時期にきている。

○世代交代をするにあたり、学校ボランティアを募集することになった。



基本情報

浦西中学校運営協議会

令和5年4月1日 設置

委員構成

自治会長、前校長(有識者)、地域学校協働活動推進員、PTA関係者、地域企業、商工業者会代表、青年会、学校長

など 10名

会議回数

学校運営協議会(年3回)
定例会(年6回)

地域学校協働推進員 1名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部名

浦西中学校地域学校協働本部

背景・取組概要

キャッチフレーズ「夢実現応援隊」～地域が学校～を理念としてみんなが参画する「わった一学校」をめざす。生徒の授業、学習支援内容等について熟議し支援する学習支援部会と学校内外での諸行事への参加等について熟議し支援する地域交流部会の二つの部会をもち運営している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- 地域企業によるトイレ清掃…2学年を対象に「トイレ清掃講話」を実施し毎週金曜日に生徒と一緒にトイレ清掃を行っている。
- 浦西High祭(体育祭)…地域青年会のエイサーや地域の協力による「浦西マルシェ」を開き不登校気味の小・中学生の居場所づくりを行っている。
- 統括的な学習探求発表会…自己探求内容の表出と新たな課題の発見を目的として行われる発表会にはCSメンバーも参加し質疑応答で生徒を激励している。また、多くの企業社長を招き専門的立場からの助言を受けることができた。
- 朝のラジオ体操地域運営協力…朝のラジオ体操運営に中学生がリーダーとなって参加、地域のこどもたちのロールモデルとなっている。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

○効果・成果

- ・運営協議会に企業や商工会のメンバーが参加したことにより、諸活動へ地域や企業が参加する機会が増えた。
- ・各委員のネットワークを活用して総合的な学習の時間の成果報告会に多くの企業が参加できた。
- ・浦西High祭に青年会が参加し地域との交流が生まれた。
- ・総合的な学習の時間を核とした地域連携の土台作りを構築することができた。

☆課題

- ・職員や地域への広報活動が不十分である。

名護市立小中一貫教育校 屋我地ひろぎ学園

基本情報

屋我地ひろぎ学園学校運営協議会

平成30年4月1日設置

委員構成

地域住民、保護者・PTA関係者、地域学校協働活動推進員、青少協支部代表、区長会代表

など 15名

会議回数 年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員 1名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部名

屋我地ひろぎ学園学校運営協議会

背景・取組概要

小中統合により誕生した屋我地地域に一つの学校として、「地域に誇りと愛着を持ち たくましく生き抜く 屋我地っ子の育成」を基本理念に掲げ、名護市教育委員会のコミュニティ・スクール実践研究指定校(平成28年度～29年度)を経て学校運営協議会を設置。「ひろぎCSネット」の学校運営協議会と各部会(学習支援・地域活動・安全環境)と連携した地域学校協働活動を推進して学校運営を支援している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・学校経営方針(グランドデザイン)にめざす子ども像・学校像のほか、地域の現状や子どもたちの実態を明記して、学校を核とした地域との連携や課題を意識した協議・取組になるように心がけている。
- ・年1回、学校運営協議会に児童生徒会役員が参加して意見交換を行っている。

◆地域学校協働活動

- ・小中9年間で地域の方の授業や学校運営への関わりを示した一覧表(「屋我地島で学ぶ」9年間)を作成。学校に関わる全ての教員、保護者、地域住民が情報交換や連携を取りやすくなっている。
- ・総合的な学習の時間(美ら島タイム)では地域の方々が講師となり、学校周辺の地域学習を行うことで地域への愛着を育てるとともに、地域学校協働活動推進員が調整役を担い、多くの方々の参画を促している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- ・学校運営協議会や下部組織に、保護者・PTA関係者をはじめ地域の社会教育団体(青少協)や自治会(区長会)も参加することで、学校と地域が一体となった取組を推進している。
- ・令和6年度には学校運営協議会や教職員・地域住民を対象にした熟議の場を設けて、コミュニティ・スクールの充実にもつれたそれぞれの関わりや活動の方向性を議論した。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

- 地域と連携した学習指導体制が評価され、児童生徒の人数が増加傾向にある。(平成28年:99名⇒令和6年:173名)
- 地域と連携した取組が増えることで、児童生徒を地域が見守り・育むという主体的な意識が高まり、「地域とともにある学校」を関係者の多くが意識して活動している。
- 学校評価アンケートを分析すると、児童生徒の地域への愛着や学校生活の充実に高い評価がみられた。
- 学校でのさまざまな取組を学校だよりや地域連携カレンダーで発信することで、多くの保護者や地域の方々に教育活動への理解や参画の意識が芽生えている。
- ☆組織体制の見直し(PTA組織と部会メンバーを統一し、会議数減、担当教員・保護者・地域住民が多様な活動を支える持続可能な組織体制を検討中)

豊見城市立豊崎中学校

基本情報

豊崎中学校運営協議会

令和6年6月25日 設置

委員構成

PTCA関係者、校区自治会長、大学教授
弁護士、地域企業代表、学校教職員
市総務課防災マネージャー

15名

会議回数

年間5回

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員 1名(0名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部名

豊見城市地域学校協働本部

背景・取組概要

令和6年4月3日の台湾沖地震の際に、地域住民が本校へ自主避難した経緯がある。その際、開校前の準備期間であったが、学校の地域的機能について改めて気づかされた。委員には、防災士や豊見城市防災マネージャーも在籍する。地域、子供たちの防災意識を高め、地域貢献できる生徒の育成を目指したい。



⇒ 地域、生徒の防災力を高める地域づくり～自助から共助へ～

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆ コミュニティ・スクール委員の選出

「豊見城市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」(第5条)において定められた構成をもとに、地域住民を基本とし、各校区自治会長、保護者(PTCA役員)、弁護士や学識者、行政機関の職員、地域企業代表、教職員とした。



写真1

◆ 学校テーマについて

開校初年度ということで、「みんなで創る！夢実現する学校」をテーマに、サブタイトルを「学校・保護者・地域の連携による開校1年目の基盤作り」とした(写真1)。



写真2

◆ 第1回合同協議会(熟議)【6月25日】(写真2)

地域とともにある学校運営に欠かせない機能として「熟議・協働・マネジメント」の3機能がある。この3機能を基本に、地域の子供をどう育てたいか、何を実現したいのかという目標を共有した。埋め立て地、海拔の低さという豊崎地区の特徴と学校の防災拠点としての機能について確認し、地域の防災力の向上と、生徒たちが「防災リーダー」として活躍することを視点に取組を推進することを確認した。



写真3

◆ 第2回協議会(施設見学+熟議)【9月5日】(写真3)

避難所としての機能について学校施設見学を通して確認した。11月6日(水)午後、生徒、保護者、地域、企業が一堂に会して学ぶ「防災教室」を企画している。当日は授業参観も予定されており、地域住民、企業代表者にも参加を呼びかける予定。

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

○CS委員から、多様な視点で活発な意見・提案があげられ、当事者意識の高まりが感じられた。

○目指す学校づくり、学校の特有の課題解決等、学校と地域でのビジョンの共有が図れた。

☆「地域学校協働活動」との連携協力。

	指標1		指標2	
	生徒	保護者	生徒	保護者
R6	92%	90%	87%	47%

※学校評価(R6,7)

※CSIに関する保護者の認知度は41%である。(「コミュニティ・スクールについて知っている」の回答より)

うるま市立南原小学校

基本情報

南原小学校運営協議会

平成31年4月1日 設置

委員構成

南風原区自治会長、南原学童代表、PTA会長、更生保護女性会代表、南風原区民生委員代表、南風原第3居場所代表、地域コーディネーター、市行政代表(市職員) など 8名

会議回数 年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員2名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)

地域学校協働本部名

南原小学校地域学校協働本部

背景・取組概要

- ・平成28年12月 市教育委員会は、コミュニティ・スクールの導入について、市総合教育会議で提案し、推進することを確認
- ・平成29年 3月 市教育委員会は、沖縄県内先進地(名護市)の視察
- ・平成29年 4月 市内5校をモデル校としてスタート
- ・同年 11月 コミュニティ・スクールフォーラムを開催、モデル校以外の学校及び市民向け周知を図る
- ・平成31年 4月 南原小学校に学校運営協議会を設置(並置校を含む全28校に設置)し現在に至る
- ・うるま市学校運営協議会規則に基づき、市教育委員会及び校長の権限と責任の下、学校と地域が連携し学校運営の改善や児童の健全育成に取り組む

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・学校経営方針等について、学校HPやスクリーン及び校長だより等で保護者への周知している。
- ・気になる児童・家庭への声掛け等、学校の課題について情報共有し、必要に応じ地域との情報共有を図りながら対応している。
- ・児童の登下校時における交通安全及び防犯に関し、学校と地域が連携して児童の安全を見守ると共に、通学路の安全上懸念される個所については、関係機関への安全対策に係る要請を行っている。
- ・地震津波防災訓練について、地域及び学童並びにこども園と連携した活動を検討している。
- ・委員である自治会長は、下校時の児童の遊戯や宿題等公民館を開放し地域で見守っている。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員を中心に地域の農家と連携した校外活動、社会見学や校外学習の際のバスの借用と運転手の手配のほか、伝統芸能(エイサー)指導等に取り組んでいる。また、地域の方を指導者として三線クラブや棒術クラブ、朝の交通安全指導や読み聞かせ活動に取り組んでいる。

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

○ 学校・家庭・地域が情報共有し、継続的な連携・協働体制の確立ができ、こどもの教育に係る課題や目標等相互に共有し当事者意識が向上した。また、教育支援活動等を通じた教育活動や子供への理解の深まり、課題解決の実践ができている。

☆ コロナ禍において、協議会の開催に苦慮し、熟議する時間の確保が厳しかった。

宮古島市立池間中学校

基本情報

池間小中学校運営協議会

令和6年4月1日 設置

委員構成

自治会長、小中学校長、漁業協同組合長、老人クラブ関係者、PTA関係者、地域住民代表 など 9名

会議回数

年間平均2回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部名

宮古島市地域学校共同本部

背景・取組概要

保護者や地域の皆さんが学校の教育活動に参画し、子どものより良い育ちを通して地域の活性化、特色ある学校、地域創りを目指します。

本市のめざすコミュニティ・スクールでは、各中学校区に「学校運営協議会」を設置し、小中連携を推進すると共に学校と地域で目指す子ども像(資質能力)を共有し、学校運営に必要な支援について、熟議を深め、連携・協働のもと推進します。

工夫・ポイント・特徴的な取組

○学校運営協議会

自治会長、小中学校長、漁業協同組合長、老人クラブ関係者、PTA関係者、地域住民代表といった幅広い委員構成で協議を行っている。

幅広い委員構成にすることで、学校運営協議会を通して地域の様々な機関や団体等のネットワーク化を図り、学校を核とした協働の取組を通じて地域の将来を担う人材の育成、地域が一体となって子どもたちを育むことで、地域とともにある学校づくりを目指す。

○学校行事・地域行事

・海の体験学習の際は漁師への依頼、船の手配を行ったり、味噌づくりの際は準備や指導を担うなど、運営協議会のメンバーが学校行事の運営に参加している。

・地域行事の際、運営協議会がコーディネートを行うなど、子どもたちが池間島の行事や文化について理解を深めることができるような教育活動を実施している。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

○学校行事の運営に学校運営協議会が加わることで、これまで学校が担ってきた地域との調整がスムーズになり、また、行事の内容も充実することができた。

○学校運営協議会が充実することで、学校と地域との協力体制が強まり、地域が学校の教育活動に協力的になるなどの効果がある。また、地域コーディネーターがいつでも学校の相談に乗ってくれている。

☆行事等の事前調整の際、地域の担当者との時間の確保が難しい。

☆協力してくれる地域の方々は、仕事を休んで参加していただいているので、その方への謝礼金や施設使用料等の予算面の確保が必要である。

南城市立知念小学校 ・ 知念中学校

基本情報

知念小中学校運営協議会

令和6年4月1日 設置

委員構成

市議会議員・民生児童委員・学識経験者
保護者・PTA関係者・地域ガイド・区長会関係者

など 18名

会議回数 年間平均10回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域コーディネーター 1名(0名)

地域学校協働本部名

南城市地域学校協働本部
(知念地区まちづくり交流会)

背景・取組概要

令和4年度に知念地域が市の一部過疎として指定されており、現在市内全域から児童生徒が通うことが認められる「小規模特認校制度」を制定し、特認校指定に向けた「特色ある教育活動」や、小中一貫教育における「教育目標」「目指す生徒像」「具体的な取組」の方向性を見いだしているところです。

→「地域とつながり 地域を愛し 新しい価値観を生み出す児童・生徒」の育成を目指す

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆小中合同の運営協議会

新たに立ち上がった小中学校合同の運営協議会では、毎月会議が開かれ、小中学校の校長や教頭、学校運営協議会委員が参加して、具体的な教育活動や地域連携の方策について意見交換が行われています。

◆まちづくり交流会

地域住民と学校が密に連携できるよう、区長や事業者等との意見交換会を実施し、地域のニーズや意見を教育活動に反映させる体制が整備されました。この取組により、地域との信頼関係を築き、具体的な方策が話し合われるよう努めています。

◆知念スポーツ祭(運動会)の開催

小中学校合同の体育行事として、地域の方々も参加できる「知念スポーツ祭」を企画中です。生徒が中心となってプログラムの作成を行い、運営協議会のメンバーの意見も反映されています。この行事を通じて、学校と地域住民の交流がさらに深まることが期待されています。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

○知念小・中学校合同の運営協議会が地域全体の一体感を深め、住民との意見交換で情報共有体制が整いました。小規模特認校制度を活用し、「地域を愛し、新しい価値観を生む」特色ある教育活動ができるための取組を進めています。

☆イベント運営に必要な労力と時間が大きく、より多くの地域住民やボランティアの協力が不可欠です。今後も定期的な会議や地域住民との連携を深め、地域で子どもたちを支える仕組みづくりを推進していきます。

恩納村立仲泊小学校

基本情報

仲泊小学校運営協議会

平成26年4月1日 設置

委員構成

地域自治会長、PTA会長、読み聞かせボランティア代表、学童代表、村社会福祉協議会など計13名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員1名(1名)

地域学校協働本部名

恩納村地域学校協働本部

背景・取組概要

地域に拠って立ち、志を高く持って他者と協働しながら未来を拓く子供を育てるため、児童生徒が自主的・協働的・創造的に学ぶ体制づくりを目指している。

その一環として、地域の人材を活用し子供が多様な大人と関わる機会を増やすことで、地域の自然・歴史・文化に関心を持たせ、自分で課題を発見し、深く考え、主体的に行動できるように取り組んでいる。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

学校と家庭・地域が目標とビジョンを共有し、子供の成長を支えるために、年に3回程度、協議を行っている。学校運営協議会では、学校経営方針・学校評価の報告や意見聴取、放課後の居場所づくり・児童の登下校時の安全確保などの課題について協議を行っている。



◆地域学校協働活動

環境学習の一環として、村漁業協同組合が行っているサンゴ保全活動を知るために、村地域コーディネーターがコーディネートし、サンゴの苗づくりや学校沖にあるサンゴ養殖地でグラスボートでの観察学習を行った。当該学習後、村赤土流出防止協議会の職員から陸域の赤土流出防止に係る取組について講話してもらい、赤土流出防止が海の豊かさの象徴であるサンゴを守ることにつながり、それが地域住民の暮らしを守るということを体系的に学ぶことができた。



また、村社会福祉協議会と連携し、保護者・ボランティアと協働した朝食支援「はまゆうキッチン」や放課後子ども教室「はなまるスペース」を実施している。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

- 地域コーディネーターや村社会福祉協議会と協働し、多様なチャンネルでボランティアの活用が図れている。
- 児童からの学校評価用アンケートで、「地域行事や地域に関する学習に積極的に取り組んでいる」の項目について、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」回答した生徒の割合が80%を超えており、地域への理解・愛着が深まっている。
- ☆ 教員の働き方改革の面からも、専門性を持った学校支援ボランティアについて活用を検討する必要がある。

北谷町立北玉小学校

基本情報

北玉小学校運営協議会

令和4年4月26日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、PTA会長、北玉小学校区自治会長、児童館館長、地域関係者、学校管理職、教務主任

計10名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

地域学校協働推進員(地域コーディネーター)1名

地域学校協働本部名

北谷町地域学校協働本部

背景・取組概要

- ◆保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者及び地域住民等による学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や児童の健全育成に取り組むことを目的に設置した。
- ◆地域の自治会及び地域住民等と連携した朝の交通安全ボランティア活動や、地域学校協働活動事業による放課後子供教室を開催している。また、学校運営協議会の場において、学校や地域課題に対応するための協議を行っている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会の開催

学校運営協議会を年に4回開催し、学校経営計画についての確認や、行事等の開催方法、校区内スクールゾーン等安全面などについて協議し、学校や地域課題に対応する取組を行っている。



◆中学校区拡大運営協議会の開催

子供の主体的な活動を支えるために、中学校区運営協議会を年に1回開催している。R4・R5はテーマを「あいさつの活性化」とし、小中合同の挨拶運動の実施やチラシや横断幕を作成するなどし保護者や地域へ広げた。

令和6年度の拡大運営協議会においては、令和6年4月に発生した地震津波避難の経験を基に、テーマを「学校・地域の防災の取組」とし、各学校運営協議会において、取組内容を検討している。



◆地域学校協働活動(北玉っ子放課後子供教室・地域未来塾)の取組

地域人材(協働活動支援員、サポーター・保護者ボランティア等)を活用し、英会話教室・ものづくり教室・学習支援・プログラミング教室を開講し、延べ140人の児童が参加している。異年齢交流や文化体験、学習支援など、放課後の安心安全な居場所づくりと、社会性や創造性を育む場となっている。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

- 学校運営協議会により、学校、地域双方向で子どもたちの様子や課題を共有することができ、子どもたちの教育活動の見守りや、朝の交通安全ボランティア、通学バスの見守り等の協力が得られた。
- 地域学校協働活動では、様々なプログラムが組まれており、放課後の子どもの居場所づくりだけでなく、社会性や自主性、創造性を育む場としての成果が大きい。
- ☆地域の担い手不足による人材確保に不安がある。
- ☆学校運営協議会のみでは、対応しきれない課題(防災訓練や不登校支援等)に対して、今後、様々な関係機関・団体との情報共有や連携が必要である。

北中城村立北中城中学校

基本情報

北中城中学校運営協議会

令和4年9月16日 設置

委員構成

地域コーディネーター、PTA関係者、自治会長、青年連合会、商工会、子ども会、スポーツ推進委員、学校関係

など 10名

会議回数 年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員1名(0名)

地域コーディネーター 2名(1名)

地域学校協働本部名

北中城村地域学校協働活動推進本部

背景・取組概要

育てたい子供像や目指す学校像等に関する学校運営のビジョンを共有・熟議することにより、お互いが当事者意識を持ち、住民等が当事者として学校運営に参画することで、学校と地域の連携・協働体制が組織的・継続的に確立され、「地域とともにある学校づくり」や「課題解決に向けた取組」を効果的に進める必要があった。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆地域学校協働活動

教育スローガンである「わったー学校・わったーわらばーたー」の地域一丸となって子どもたちの教育に関わる目標のもと、役場職員や地域、企業の方などが面接官となり、本番さながらの緊張感の中、面接に臨む態度や言葉遣い、表現力を鍛えることができた。

模擬面接の様子



◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働本部のメンバーが学校運営協議会委員に任命されており、それぞれの視点から課題等を共有し、解決に向けて連携を図りながら様々な活動に取り組んでいる。



特別支援教室の生徒との活動(教材園の整備)

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

○地域ボランティアによる読み聞かせ活動や、個別学習支援を実施し、生徒が充実した学校生活を送ることができた。

☆地域コーディネーターなどの地域の人々と学校との連携は取れているが、子どもたちがどのようにすれば地域との関わりを深めることができるかが課題(地域行事や子ども会への参加など)

西原町立西原東中学校

基本情報

西原東中学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

地域コーディネーター、保護者、自治会長
元学校関係者、生徒指導巡回ボランティア、
地域企業関係者、地域塾経営者、学校管理職
学校職員(教務)

など 10名

会議回数 年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員1名

地域コーディネーター (1名)

地域学校協働本部名

かなまるコミュニティー協働本部

背景・取組概要

・学校と地域がパートナーとして連携・協働するために、学校は「地域に開かれた学校」から一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現させていくのかという目標やビジョンを地域住民・保護者と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へ転換していく必要がある。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

・子どもたちが学校行事等への主体的な参画と、地域との連携協働を目指し、年5回学校運営協議会を実施している。直近のテーマは、「制服変更(マイナーチェンジ)」について、保護者・地域・生徒・職員との意見交換、検討を重ね、来年度から移行期間、令和8年度からは完全実施と決定した。



◆地域学校協働活動

・「地域生徒会」を毎年開催しながら地域との触れ合いを深め、各自治会長と連携し行事に参加することで、地域貢献を目指す。また、地域との学びあいの場を推進することで、地域全体の絆を強化する。



・授業(ミシンボランティア、読み聞かせ、エイサー指導)等に地域人材を積極的に活用。地域コーディネーターが学校と地域との橋渡しを行い、年間を通した実施計画を地域連携担当教師とともに中心となり実践している。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題

○成果・効果

- ・地域生徒会活動を通じた地域との連携や地域ボランティア活動へ積極的に参加する生徒が増加した。
- ・学校生活への満足度が生徒、保護者ともに肯定的であり学校行事等に積極的に参画し、魅力ある学校づくりに構築している。

☆課題

- ・さらなる地域人材、専門分野職の発掘が必要である。

	積極的にボランティア活動に参加している		学校に行くのが楽しい	
	生徒	保護者	生徒	保護者
R5前期	53%	51%	78%	85%
R5後期	85%	85%	85%	90%